

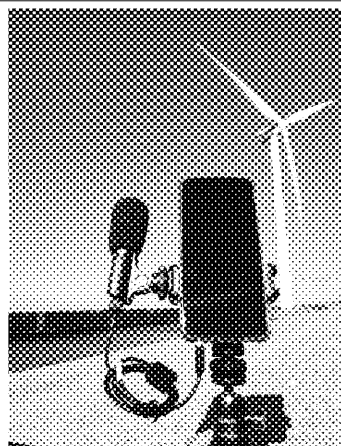
# 風力発電 音で損傷検知

## 不動技研、契約者に機器貸与

【長崎】不動技研工業（長崎市、田中三郎社長）は、風力発電設備のブレード損傷などを音響によって検知するサービスを4月に始める。契約者に端末とマイク、ホルダ

ーを貸与して行う。使用機器を持ち運べ、経験を問わず損傷を把握しやすい点が特徴としている。サービスには、ブレードの風切り音を解析する検知システム「C

hokai（チヨウカイ）」を用いる。60秒以上の録音と約20秒のデータ解析を組み合わせて異常を検知する。料金は月当たり消費税抜き3万円のサブスクリプション（定額制）



スマートフォンを使った損傷検知サービスのイメージ

形式。

同社はプラントや機械などの設計・エンジニアリングを手がける。今後、風力発電設備にマイクを常設するタイプのサービスも開発する計画という。